

CLOSE UP
ひとの＊ちから

いわもと なおゆき ●1969年生まれ、緑ヶ丘5丁目在住。教師になって20年目。熊本市、天草市（旧牛深市）、岱明町の小学校を経て平成18年に荒尾第一小学校へ赴任し、現在5年目。

荒尾第一小学校教諭 岩本直幸さん

この日の荒尾第一小学校2年1組の2時間目は、道徳の授業だ。

教壇に立ったのは、岩本直幸さん。岩本さんがまず取り出したのは、教科書ではなくビニールに包まれた「新聞」。

「雨の日に濡れないように、読めなくならないように、読む人のために手間をかけてくれる人がいるんですよ」――。

穏やかな表情で「ありがたうを伝えよう」と子どもたちに語りかける岩本さんは、学校教育において顕著な成果を挙げたとして、1月31日付けで、文部科学大臣から優秀教

員の表彰を受けた。子どもたちが今受けている道徳の授業についての功績が認められたものだ。

岩本さんは現在、担任を持たない研究主任という立場。しかし時折、こうして他の先生のピンチヒッターなどで教壇に立つ。

現在の担当教科は国語だという岩本さんだが、道徳にとても魅力を感じ、前任校の頃から力を入れてきた。

「しかし以前の道徳の授業では、お説教ばかりしていたんですよ」と岩本さんは照れる。これではいけないと思った岩本さ



- 1_2月10日（木）の2年1組。表情豊かな授業をする岩本さんから、子どもたちは目をそらさない。
2_子どもたちと一緒に考える時間を共有。「子どもたちからは教えられることばかりです」と岩本さん。
3_2月2日（水）、賞状を手に、前畑市長らに受賞の喜びを報告。右から太田荒尾第一小学校校長、岩本さん、前畑市長、中嶋教育長。

んは先輩に学び、また教育センターの助力を得ながら自ら研究し、授業を工夫した。老人ホームを訪れたり、校庭の植物に聴診器をあててみるなど、自分以外の人やさまざまな命と触れあう「実体験」を積む授業をつくりだした。

「座学も必要ですが、道徳は心の勉強です。体験して、それから感じたことを教室での授業につなげていくんです」

岩本さんは「命の大切さ」に力を入れる。そのきっかけになったのは、平成16年に長崎県で起こった佐世保小6同級生殺害事件だ。人の役に立つ自分、必要とされる自分を意識することで、命とは全て大切なものだと感じてほしいと思ったという。

以前に行った授業では、保護者の協力を得て保護者から子どもたちへ手紙を用意し、授業の最後に、愛情がたっぷり詰まった手紙を一人ひとりに手渡した。手紙を読んで大粒の涙をこぼす子ども、何度も何度も読み返し、嬉しそうにほほ笑む子ども。幸せそうな子どもたちの表情に、岩本さんは心を打たれた。子どもたちが改めて、自身自身の大切さを実感した瞬間だった。

今回の受賞を「恐れ多いです。授業では空回りしてばかりなんです。まだまだ力が足りません」と言う岩本さん。「道徳は温かい授業だと感じてほしい。終わったあと、みんなが元気になるってほしい」もつといい授業へ意欲を燃やすまなざしは、温かい。

2年1組の道徳の授業の終わり。「ありがたう」を伝える手紙を書いた子どもたちは、休み時間になっても「まだ書きたい！」。

子どもたちは授業を通じ、たくさん「ありがたう」を見つけ出す。優しい心が生まれる岩本さんの授業は、見るものをも元気にした。